

**ネイチャーポジティブグローバルサミット 2026**  
**(Global Nature Positive Summit 2026)**  
**開催に関心のある自治体の募集と情報提供のお願い**

2025 年 6 月  
Nature Positive Summit2026 準備チーム

連絡先：  
国際自然保護連合日本委員会  
東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2F  
mail@iucn.jp

以下の情報、Global Nature Positive Summit 2026 の開催に関心をもつ  
自治体調査用にまとめた暫定情報（2025 年 5 月時点）である。

目次

**内容**

|                                                       |    |
|-------------------------------------------------------|----|
| ネイチャーポジティブ世界サミット 2026 の概要 .....                       | 2  |
| A. 主催団体について .....                                     | 3  |
| B. Global Nature Positive Summit 2026.....            | 4  |
| C. Global Nature Positive Summit 2026 の組織とガバナンス ..... | 7  |
| D. Global Nature Positive Summit 2026 開催に伴うメリット ..... | 9  |
| E. 開催に関心のある自治体の募集と、必要な情報の提供について .....                 | 10 |
| 附属書 I – 情報提供の提出書類のためのガイドライン .....                     | 12 |

## ネイチャーポジティブ世界サミット 2026 の概要

(2025 年 5 月時点)

主催：ネイチャーポジティブイニシアティブ（Nature Positive Initiative）

共催：国際自然保護連合日本委員会、（以下、予定）環境省、日本自然保護協会、ICLEI 日本

運営：日経 BP

協力：TNFD 日本協議会、企業と生物多様性イニシアティブ

\* NPI コア団体や日本関係団体等プログラムへの協力団体を想定。政府や経済界等の参画・後援等は決定次第、随時、更新予定

（協賛も募集予定：生物多様性注力企業名等が掲載される）

日程：2026 年 7 月頃、3 日間（1 日は、エクスカーション）

開催都市：未定（関心自治体を募集中）

想定する参加者：ネイチャーポジティブ社会の実現に関心のある国内外企業・金融機関、NGO、自治体、教育研究機関 500 名～1500 名

会議フォーマット：全体会、テーマ別セッション（複数テーマの平行イベント）、ランチセッション、展示/ポスターセッション、ハイレベル会談（クローズ）、レセプション等で構成

自治体首長や企業 CEO、NGO や先住民地域共同体のリーダー等によるハイレベル対話や、TNFD 枠組みに基づく情報開示や、目標設定、自然の状態定量化、ランドスケープレベルでの取り組みなど最先端の取組に携わる実務者による先進事例紹介が行われる。

会議の結果を元に、本サミット以降続く、国際的な生物多様性政策や基準策定のプロセスに大きな影響を与えていくことが期待される。

## A. 主催団体について

### Nature Positive Initiative

Nature Positive Initiative（NPI：ネイチャー・ポジティブ・イニシアティブ）は、世界の生物多様性危機に対処するために、自然の損失を止め、回復させることを目指す国際的な連携プラットフォームです。2022年に発足し、国際自然保護連合（IUCN）、世界自然保護基金（WWF）などの国際NGO、Business for Natureといった企業グループ、TNFDやSBT for Natureといった枠組み構築機関、ICLEIなどの自治体ネットワークなど多様でかつ当該分野をリードする主要な民間組織が連携しています。

NPIの中心的な理念は、「2030年までに自然の損失を止め、回復軌道に乗せる」という「ネイチャーポジティブ（Nature Positive）」という考え方にあります。これは、単に生物多様性の減少を食い止めるだけでなく、自然資本を回復させ、将来的に人類と自然が共生できる社会を構築するという積極的な目標です。

NPIは、「共通理解の確立」に重点を置いている点です。「ネイチャーポジティブ」という用語は広く使われつつも、その定義や評価指標がばらついていたため、NPIは明確な科学的根拠と実践的なガイダンスの提供を通じて、共通の指標と行動指針の整備を進めています。

さらに、NPIはポスト2020生物多様性枠組（昆明・モンテリオール生物多様性枠組）の目標達成を支援するための手段としても機能しており、政府、企業、市民社会の参加を促進しています。特に、ビジネスセクターに対しては、生物多様性のフットプリントの可視化や、ネイチャーポジティブな行動への転換を求めています。

[Nature Positive Initiative のウェブサイト](#)

[Nature Positive Initiative 加盟団体一覧](#)

### Global Nature Positive Summit 2026 準備チームと組織委員会

Global Nature Positive Summit 準備チームは、NPI事務局からGlobal Nature Positive Summitの日本での開催の検討依頼を受けたのを契機に、IUCN-J（会長：道家哲平）が国内有識者に助言を受けながら協議を進めています。

世界サミット開催に関心のある自治体を特定したのち、開催自治体代表者も入れたサミット組織委員会の発足へと引き継ぐための準備組織として活動しています。

## B. Global Nature Positive Summit 2026

### Global Nature Positive Summit 2024（前回サミットについて）

昆明・モントリオール生物多様性枠組（GBF：Global Biodiversity Framework）の実施を加速させ、ネイチャーポジティブの目標を推進するため、オーストラリア政府は2024年10月8日から10日にかけて、オーストラリアのシドニーで第1回 Global Nature Positive Summit を開催しました。このサミットは、環境大臣、企業や金融機関のリーダー、環境保護団体、科学者、学術関係者、市民団体など、50カ国以上から1,000人以上の参加者を集める場となりました。

このサミットは、オーストラリア政府の国内アジェンダや、自然保護に積極的な国内法の検討を推し進めました。伝統的、先住民的な知識や慣習を重視し、これらの異なるグループ間で知識を共有し、つながりを構築するユニークな機会を創出し、これらのグループが自然を尊重する未来という共通のビジョンの実現に向けて次のステップを踏み出すことを可能にする、包括的なアプローチも特筆すべきものとなりました。

参照: [Global Nature Positive Summit Sydney 2024](#)

### Global Nature Positive Summit 2026（今回サミットについて）

今回サミットのタイトルは未定ですが、「ネイチャーポジティブアクションのスケールアップ」「ランドスケープレベル」「協働」「資金」「ネイチャーポジティブ経済」が重要なテーマとなります。

第2回目となる Global Nature Positive Summit は、特に企業セクター・自治体という現場実践の担い手の参加を期待し、昆明・モントリオール生物多様性枠組の実践と、ランドスケープレベルの取組加速、ネイチャーポジティブ経済が焦点となる見込みです。

3日間の会議で国内外多数のリーダーを招待し、開示・目標設定・自然の評価といった現在進行する国際基準のユースケースを学び、ランドスケープレベルでの行動を引き起こし、それを可能とする自然への投資の拡大、自然環境の修復と再生について議論を行います。また、展示・ポスターブースでは日本及び世界各地で進められている自然の修復再生、そして現場での取り組みについての紹介を行います。

3日間のうち1日は、エクスカージョンを企画します。アジアの自然の特徴や、自然との関わりを世界各地のリーダーに体感し、日本関係者との交流を促進することで、より普遍的なネイチャーポジティブ社会実現に向けた共通理解や共通枠組構築にアジアの視点を組み込む重要性を訴えていきます。

このサミットは、ネイチャーポジティブの実現に向けて、世界各地から多様なステークホルダーが集い、対話と協働を促進するためのプラットフォームとなります。参加者はこのサミットへの参加を通じて、ネイチャーポジティブ実現に向けた障壁を乗り越えるためのコネクションやネットワークを築くこ

とができるほか、世界各地の優れたネイチャーポジティブ事例の展示から多くのインスピレーションを得ることができます。

サミット開催を通じて得られた成果等は、その後に続く自然関連国際会議等で発信し、TNFD/SBT 等の国際枠組み形成に影響を与えます。特に、生物多様性世界枠組みの中間評価と実施の強化策が中心議題となると考えられる「生物多様性条約第 17 回締約国会議」でのサイドイベントを通じた発信等は重要なインプット先の一つです。

## 想定参加者

今回のサミットは約 500-1,500 人の参加者を予定しています。参加者の多くは、国内外の企業、NGO、自治体、研究機関、先住民地域共同体、ユースなど多彩な参加者となる見込みです。また、自然をテーマとした国際会議は欧米で開催されることも多いことから、アジア、特に、TNFD 枠組みに関心を強くもっている東アジアからの参加者も多いことが予想されます。

このサミットは、国内のみならず世界的なメディアの関心を集め、会場での記者会見は世界的な記者による大きな報道を生むでしょう。約 50-100 名の記者がサミットに出席することが期待されます。

## Global Nature Positive Summit 2026 のテーマ候補

過去に開催された Global Nature Positive Summit は以下の目的で開催されました。

- 自然への投資を拡大するために必要な経済的枠組みに関して合意形成を図る
- 効果的な取り組みや優良事例、実施への道筋を共有する
- ネイチャーポジティブな成果を可能にする革新的なツールやアプローチを紹介する
- 昆明・モンリオール生物多様性枠組みの目標達成に向けたコミットメントと進捗を示す

今回、日本で開催される Global Nature Positive Summit での具体的な目的やテーマは、開催自治体が決定されてから自治体と運営委員会での協議の元策定されますが、その中でも以下のキーワードは、現時点でも重要視されるものです

ネイチャーポジティブ x ランドスケープ協働 x ネイチャーポジティブ経済

考えられるサブテーマ（現在検討中のため変更の可能性あり）

1. 「ランドスケープ・パートナーシップの未来：共にデザインし、共に管理する」
2. 「バリューチェーンからランドスケープへ：企業が地域と結ぶ新しい責任」
3. 「生きている流域：水と土をめぐる統合マネジメント」
4. 「自然を再生する都市：ネイチャーポジティブなまちづくり」
5. 「食と土地の再接続：再生型フードランドスケープ」
6. 「地域と自然を守る知恵：先住民族・地域コミュニティのリーダーシップ」

7. 「自然を可視化し、投資する：自然関連データとグリーンファイナンス」
8. 「気候と生物多様性をつなぐ：カーボン・ネイチャー統合アクション」
9. 「自然の目標を“見える化”する：定量的ターゲットと共通指標の設計」
10. 「海から考えるネイチャーポジティブ：沿岸・海洋の再生とブルーエコノミーの共創」
11. 「AI・デジタル時代の水：半導体・サーバーと地域水資源の共生モデル」

## C. Global Nature Positive Summit 2026 の組織とガバナンス

### Global Nature Positive Summit のガバナンス概要

このサミットは Nature Positive Initiative によって主催され、Global Nature Positive Summit 2026 組織委員会によって運営されます。また、ネイチャーポジティブ関連のセミナーやイベント運営に長けた日経 BP が開催に加わり、会議全般のマネジメントと広報をけん引します。

組織委員会のメンバーはそれぞれの部門(プログラム、エクスカーション、広報等)を兼任し、サミットに関する最終的な決定は組織委員会全体で決議されます。サミットの設計、実施、フォローアップにおいて NPI と開催自治体からの意見がそれぞれ十分に考慮されるように調整を行います。

組織委員会には、下部組織として、プログラム部門、ロジスティクス部門、地域連携部門、協賛・資金調達・予算管理部門、広報・メディア部門、参加者登録部門、IT 部門、エクスカーション部門、地域連携部門、ユース部門等が必要に応じて、順次、作られる見込みです。

特に開催自治体には、

- 組織委員会レベル
- ロジスティクス部門 (会場選定・地域との調整・宿泊、交通、現地ボランティア管理・通訳・同時通訳・多言語対応・環境配慮対応)
- 地域連携・ホスト調整部門 (地域との協働体制づくり、地元行政/企業/NGO との連携、レセプション、地域への遺産 (レガシー) づくり)
- エクスカーション部門 (文化的・社会的活動の主催、エクスカーションのオプションを提案し、予算や料金を含むプロセスを管理、地域の自然や社会の魅力発信)

などへの参加、リーダーシップの発揮が期待されます。

具体的には、

1. 組織委員会レベル (月 1 程度のオンライン会合等へのオブザーバー参加・全体計画等への協力)  
自治体の代表者 (部課長級またはその指名を受けたもの) : 1 名 (首長開会挨拶準備調整含む)  
連絡調整担当 (窓口) : 1 名 (会議期間中は常時対応可能が理想)

#### 2. 地域連携・ホスト調整部門

地域行政/企業/NGO との連携調整 : 1~2 名

地域でのレセプションやホスピタリティ支援 : 1 名 (文化団体や地元飲食との調整含む)

地域レガシーに関わる企画支援 : 1 名 (教育・環境等と絡めて)

#### 3. エクスカーション部門 (希望があれば支援)

地域資源 (自然、企業、人材) の紹介・協力先調整 : 1~2 名 (地元ガイド団体や観光課との連携)

#### 4. ボランティア・多言語対応サポート

ボランティア募集／地元大学等との調整窓口：1 名

通訳調整支援（企業側の主導をサポート）：0.5 名（アドバイザー的）

1～3 名程度から、自治体の参画度・規模に応じて、組織委員会と協議をしていく徐々に拡大する想定。

6～8 名程度（非常勤・兼務含む）、観光課、国際交流課、地域連携課などからの横断的なチーム編成になることを想定。

会議期間中は 2～3 名が常駐、それ以外は事前調整とイベント前後の対応がメインと考えています。

## **D. Global Nature Positive Summit 2026 開催に伴うメリット**

Global Nature Positive Summit 2026 の開催は、自治体にとって日本国内におけるネイチャーポジティブのリーダーシップを発揮する絶好の機会です。開催自治体は、自らの環境施策や地域の取り組みを国内外に発信し、日本を代表するネイチャーポジティブの先進地域としての地位を確立できます。

また、本サミットは、企業、NGO、地域コミュニティなど多様なステークホルダーとの協力関係を強化する場にもなります。自治体は、サミットを通じて国内外の専門家や実践者となつながら、先進的な取り組みの知見を共有し、地域の環境施策のさらなる発展につなげることができます。

さらに、サミットの開催は地域経済にも好影響をもたらします。国内外からの来訪者による観光・交流が促進され、地域のビジネスや持続可能な観光の発展に貢献します。これにより、自治体は環境保全と地域振興を両立させるモデルケースとして注目を集め、新たなパートナーシップやプロジェクトの創出にもつながります。

## E. 開催に関心のある自治体の募集と、必要な情報の提供について

### 開催自治体選定方法

選定方法は以下の通りです。

- ①関心をもつ自治体(以下関心表明者)は、本サミットの開催に関心があることを表明するために、提出を求める情報を提出することが求められます。
- ②これらの提出された情報をもとに、NPI と NP サミット準備チームによる協議を行います。
- ③協議の結果を元に、候補自治体の関係部署と、サミットの開催に向けて協議をさせていただきます。

以下、開催自治体として提供してほしい情報をまとめます。関心表明者はこの要件に基づき、情報をまとめてください。

#### 1. 会場（必須）

会場は、500-1,500 人の参加者を収容でき、全体会議、分科会、会議室、ポスター展示スペース、会議スタッフのオフィススペースが確保できる適切なスペースと設備を提供し、必要なすべてのアメニティが整っていることが求められます。全体会議や分科会等のセッションには、適切なステージ、優れた音響隔離（小さな部屋にも対応）、最新の音響映像設備が必要です。理想的には、柱がないことが望まれます。

以下、候補となる会場の情報を教えてください。

- ✓ 会場名、住所、URL など
- ✓ 当該会場で開かれたことのある国際会議（あれば）
- ✓ 上記の全体会議や分科会等の部屋数やキャパシティ等
- ✓ その他、デジタルポスター、飲食エリア、VIP ラウンジ、ネットワーキングエリア、プレス向けエリアなどの会場のアピールポイントがあれば、ぜひ、お教えてください
- ✓ 会場全体にはインターネットインフラが必要です。関心表明時点で、インフラ状況を把握していたらお教えてください

#### 2. 持続可能性とレガシー（任意）

- ✓ 自治体として定めている、環境配慮を含む、持続可能なイベント開催に向けた取組や方針について教えてください

本イベントはイベント開催における持続可能性について模範となることを目指しています。会場、ホテル、サプライヤー、サービス提供者、開催都市、開催国のすべてが、調達、宿泊、交通、食事、エネルギー、廃棄物管理など、あらゆる側面において持続可能性への配慮を実施していきます。

- ✓ また、開催自治体としてサミット開催を通じてイベント参加者等に発信したいメッセージ、残したいレガシーへの思いがあれば教えてください

### **3. 開催地の受け入れ能力（任意）**

- ✓ 開催都市の総宿泊室数に関するデータ、並びに単一イベントに対して 500-1,500 室を確保した実績があれば提示してください。宿泊数については、周辺自治体との協力による実現も想定されていれば、その旨もご提示ください。
- ✓ 開催自治体として、一定規模の事前確保ができる場合はお教えてください。

これらのホテルは会場からのアクセスが良く、徒歩圏内または公共交通機関で容易にアクセスできることが理想的です。

### **4. 開催自治体として提供可能なエクスカーション候補、便宜（任意）**

- ✓ エクスカーション先の候補や、開催自治体として提供できそうな支援等があればご提示ください。

## 附属書 I – 情報提供の提出書類のためのガイドライン

上記セクション E に記載された全要件を満たすために、提出書類は以下のガイドラインに従う必要があります。

関心表明のための書類提出について

提出書類は以下の情報を含めなければいけません。

基礎情報

自治体の名称;

提案書の作成に関与した部署;

準備チームが追加質問を送付できる窓口担当者の氏名と連絡先情報

セクション E に関する情報

付属資料（必要に応じて）

### フォーマット

書類は A4 サイズ（横向きまたは縦向き）で、画像、ビデオ、付属文書またはウェブサイトへのリンクを含めてもかまいません。文書は、検索可能な PDF に変換し、ページ番号を付けてください。

フロアプラン、写真、ビデオ等の補足書類があれば、別添資料として追加してください。

### 応募期間中の問い合わせについて

本募集要項に関するすべての質問や照会は、以下の宛先までお問い合わせください。

宛名：Global Nature Positive Summit 2026 準備チーム

メールアドレス：mail@iucn.jp

準備チームとのすべてのやり取りは日本語で行われます。

候補者は、選定プロセスに関する質問を 2025 年 6 月 30 日までに、上記メールアドレス宛に書面で提出することができます。

選考プロセスの透明性を確保するため、実行委員会は受領した質問への回答を、適切に匿名化したうえで、すべての関心表明者に対して共有することがあります。

### 本募集要項の修正について

実行委員会は本募集要項の修正を書面にて通知することにより行うことができ、必要に応じて書類の提

出締め切り日と時間を延長する場合があります。

## **書類の提出方法及び要件**

関心表明者は 2025 年 6 月 30 日 23:59 (日本時間)までに書類を mail@iucn.jp 宛てに電子メールで提出してください。メールの件名は以下のようにしてください。“Global Nature Positive Summit 2026 提出書類- [関心表明者名]”書類は印刷と検索が可能な PDF で提出してください。ファイルが大きく、1 通のメールに収まらない場合は、複数のメール(「メール 1/3 通目」などと記載)で送信するか、提出書類全体をダウンロードできるリンクを送信してください。

## **締め切り後及び不完全な提出書類について**

実行委員会が指定した締め切り日時を過ぎて受領された提出書類、および不完全な提出書類については審査の対象となりません。実行委員会は、関心表明者からの送信遅延について一切考慮しません。

## **提出書類の撤回及び変更について**

提案書は、締切日時以前であれば、電子メールを通じて撤回、または変更することが可能です。締切日時後の変更や撤回は受けつけられません。ただし、実行委員会は関心表明者に対して補足説明や追加情報の提供を求めることがあります。

## **結果通知**

書類を提出したすべての関心表明者に対して、7 月 31 日までに実行委員会から結果について通知します。自身の提案が棄却された場合の理由については問い合わせに答えることができませんのでご了承ください。